

Kansai Economic Insight Monthly

2018/7/25

Vol.63 June/July

▼ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

▼ レポート公開時期は毎月第4週を予定しています。

▼ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰(各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

▼ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府4県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

目次

要旨	1
関西経済のトレンドとCI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	10
中国景気モニター	11
主要月次統計	15
Release Calendar	16

要 旨

- 景気は足下、先行きともに悪化基調で推移※ -

- ✓ 5月の鉱工業生産指数は4カ月ぶりに前月比大幅マイナスとなり、近畿経産局は生産の基調判断を前月から下方修正した。一方、4-5月平均は1-3月平均比で大幅上昇した。
- ✓ 6月の貿易収支は5カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年比大幅拡大した。アジア向けの半導体関連による輸出の伸びが、原油高による輸入の伸びを上回ったためである。
- ✓ 6月の景気ウォッチャー現状判断DIは、6カ月ぶりに前月比改善。大阪北部地震の影響はあったが、サッカーW杯開催による家電の販売増や好天に恵まれたことなどから、総じてみれば改善した。
- ✓ 4月の関西2府1県の「関西コア」賃金指数は12カ月連続の前年比増加。実質現金給与総額も2カ月連続の改善。所得環境は改善が見られる。
- ✓ 5月の大型小売店販売額は3カ月ぶりの前年比マイナス。百貨店では気温低下による夏物衣料品の販売が低調となり、スーパーでは主に農産品価格が低下したため。
- ✓ 分譲マンションの好調により、5月の新設住宅着工戸数は、2カ月連続で前年比大幅増加。水準は2015年6月以来の最高値。
- ✓ 5月の有効求人倍率は前月比横ばい。労働需給が引き締まった状態が続く。完全失業率は4カ月ぶりの小幅改善。雇用情勢は好調である。
- ✓ 6月の公共工事請負金額は前月から大幅なプラスの伸びに転じた。結果、4-6月期、公共工事請負金額は2四半期ぶりのプラスであった。
- ✓ 5月の建設工事は、3カ月連続で前年比増加した。大阪府北部地震の影響もあり、今後は増加が期待される。
- ✓ 6月の関空を利用した訪日外客数は16カ月連続の前年比増加。15カ月連続で2桁増が続いており好調である。国籍別では、4月は花見のため中国からの訪日客が8カ月ぶりに最多となった。
- ✓ 4-6月期の中国実質GDPは前年同期比+6.7%となり、前期から-0.1%ポイント減速した。6月の工業生産は2カ月連続で前年比減速し、(累積)固定資産投資は4カ月連続で同減速した。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。

【関西経済のトレンド】

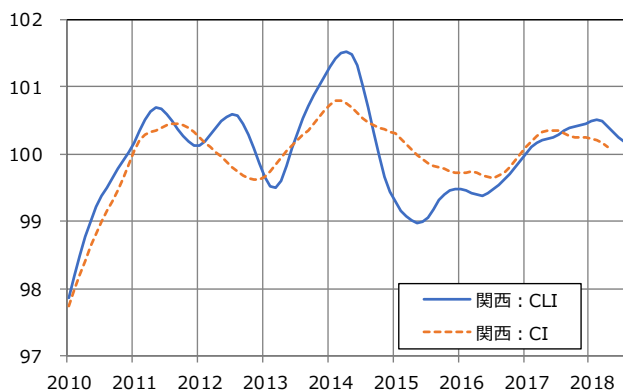
	2017年							2018年					
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生産	↙	↘	↙	↘	↙	↙	↙	↘	↙	↙	↙	↘	
貿易	→	→	↙	↙	→	↙	→	↙	↘	↙	↙	↙	↙
センチメント	↙	→	↘	→	↙	↙	↙	↘	↘	→	→	↘	↙
消費	→	→	→	↙	→	↙	→	→	→	→	→	↘	
住宅	↘	→	→	→	→	→	↘	↘	↙	↘	↙	↙	
雇用	↙	↙	→	↙	↙	↙	↙	↙	→	↙	↘	→	
公共工事	↘	↘	↘	↘	↙	↙	→	↙	↘	→	→	↘	↙
中国	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	↘

(※トレンドの判断基準)

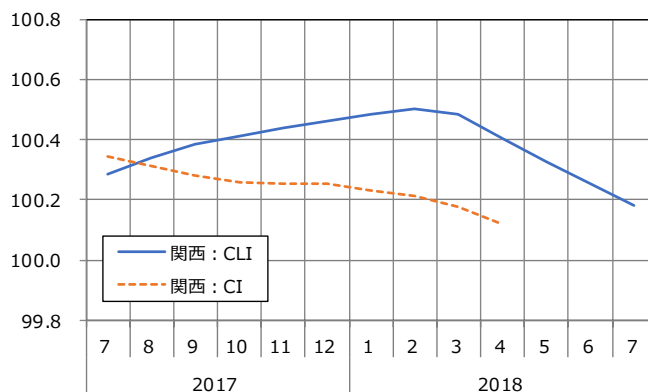
- ・**生産**：近畿経済産業局『近畿地域拡大工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月～2018年7月)



直近1年間のCI・CLIの推移(2017年7月～2018年7月)



【鉱工業生産動向】

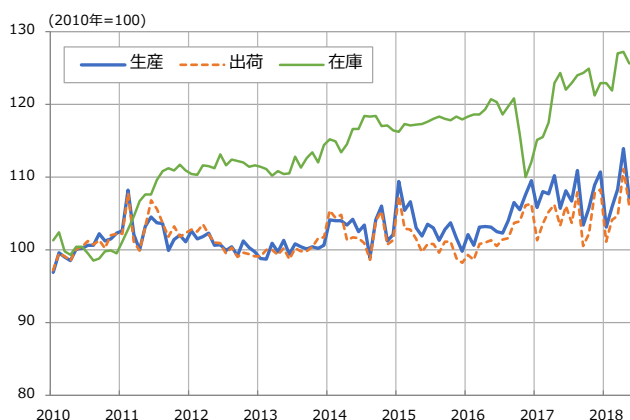
(1) 関西の生産動向

関西 5 月の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2010 年=100)によれば、生産は 107.1 で、前月比-6.0%と 4 カ月ぶりの低下。出荷は 105.9 で、同-4.7%と 4 カ月ぶりの低下。在庫は 125.6 で、同-1.3%と 3 カ月ぶりに低下した。近畿経済産業局は同月の基調判断を「生産は緩やかな持ち直しの動きで推移している」と前月の「生産は持ち直しの動きで推移している」から下方修正した。結果、4-5 月平均は 1-3 月平均比+4.5%と大きく上昇した(1-3 月期は前期比-2.5%)。

なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2015 年=100)を見ると、5 月(確報値)は前月比-1.5%と 3 カ月ぶりに下落。6 月(速報値)は同-0.3%と 2 カ月連続のマイナスとなっている。

5 月の生産指数を業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比-26.0%、4 カ月ぶり)、化学(除・医薬品)(同-4.2%、2 カ月ぶり)、電気機械(同-4.8%、2 カ月連続)等が減産となった。一方、電子部品・デバイス(同+18.2%、2 カ月ぶり)、食料品・たばこ(同+3.7%、3 カ月ぶり)、情報通信機械(同+3.2%、4 カ月連続)、その他(同+2.3%、3 カ月ぶり)等が増産となった。

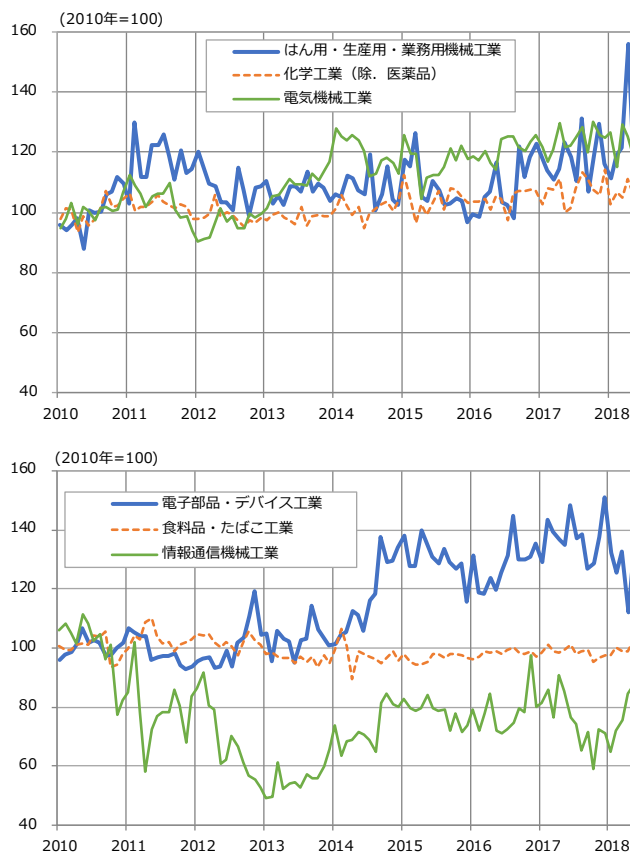
関西の鉱工業生産動向の推移(2010 年 1 月～2018 年 5 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010 年 1 月～2018 年 5 月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

(2) 全国の生産動向

全国 5 月の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010 年=100)を見ると、生産は 104.4 で前月比-0.2%と 4 カ月ぶりの下落。出荷は 101.5 で同-1.6%と 4 カ月ぶりの下落。在庫は 113.5 となり同+0.6%と 2 カ月ぶりに上昇した。

業種別にみると、輸送機械(前月比-5.9%)、化学(同-1.2%)、鉄鋼(同-2.0%)等が減産となった。一方、電子部品・デバイス(同+3.4%)、情報通信機械(同+4.4%)、食料品・たばこ(同+1.5%)が増産となった。

なお、製造工業生産予測調査(速報値ベース)によると、5 月は前月比+0.4%と増産が予測されている。予測が実現すれば 4-6 月期の生産は 1-3 月期比+2.1%となり、2 四半期ぶりに増産が見込まれる。

全国の鉱工業指数の推移(2010年1月～2018年5月)



(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

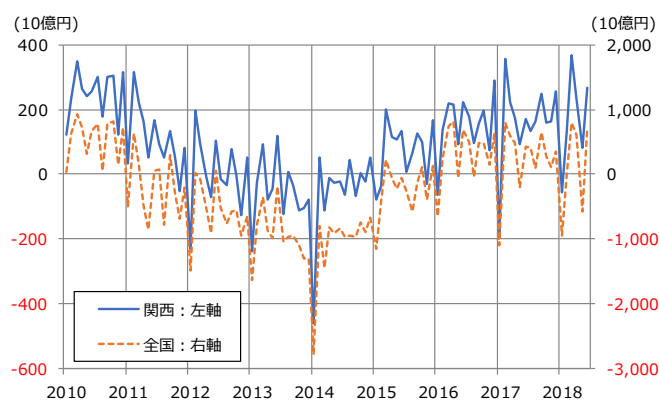
【貿易動向】

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西 6 月の貿易収支は +2,681 億円と 5 カ月連続の黒字となった。黒字幅は前年同月(+1,724 億円)と比べて+55.5%と大幅拡大した。中国を中心とするアジア向けの半導体関連による輸出の伸びが、原油高による輸入の伸びを上回ったためである。

また、全国 6 月の貿易収支(速報値)は、+7,214 億円と 2 カ月ぶりの黒字となった。黒字幅は前年同月(+4,332 億円)と比べて+66.5%拡大した。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2018年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

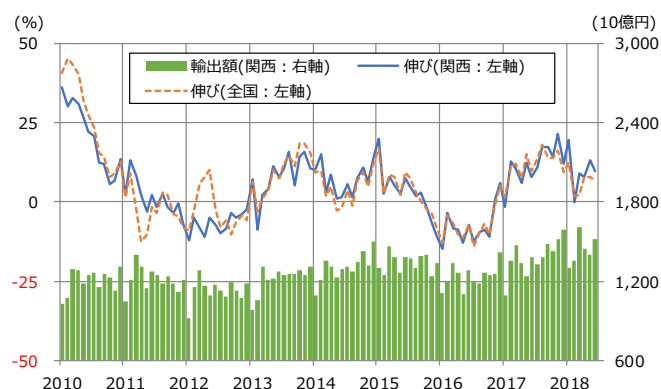
(2) 輸出

関西 6 月の輸出額(速報値)は 1 兆 5,209 億円で前年同月比+9.9%と 4 カ月連続の増加。財別にみれば、半導体等電子部品(過去最高額)、原動機(単月過去最高額)等が増加した。中国向けスマートフォン用メモリの需要にけん引された。

なお、日銀の実質輸出(季節調整値, 2015 年平均=100)によると、6 月(速報値)は 113.1 となり、前月比-0.3%下落した。2 カ月連続のマイナス。結果、4-6 月期は前期比+0.4%と 2 四半期ぶりに上昇した。

全国 6 月の輸出額(速報値)は 7 兆 524 億円で、前年同月比+6.7%と 19 カ月連続の増加。財別に見れば、原動機、半導体等電子部品、自動車の部分品等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2018年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

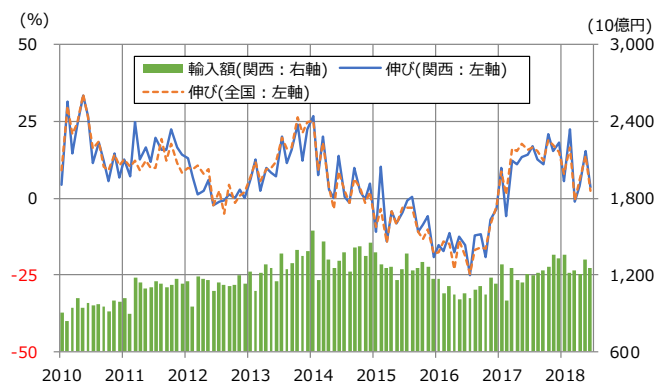
(3) 輸入

関西 6 月の輸入額(速報値)は 1 兆 2,528 億円、伸びは前年同月比+3.4%と 3 カ月連続の増加。財別に見れば、原油及び粗油、たばこ(単月過去最高額)等が増加した。

なお、日銀の実質輸入(季節調整値, 2015 年平均=100)によると、6 月(速報値)は 104.9 となり、前月比-3.7%と下落した。2 カ月ぶりのマイナス。結果、4-6 月期は前期比-2.0%と 2 四半期連続で低下した。

全国 6 月の輸入額(速報値)は 6 兆 3,310 億円で、前年同月比+2.5%と 3 カ月連続の増加。財別に見れば、原油、非鉄金属、衣類・同附属品等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2018年6月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西6月の貿易収支を地域別にみると、対アジア(含中国)の貿易収支は+3,189億円と17カ月連続の黒字であり、黒字幅は前年同月比+16.2%拡大した。輸出(1兆254億円)は4カ月連続の増加(同+9.3%)。財別に見れば、半導体等電子部品、原動機等が増加した。輸入(7,065億円)は3カ月連続の増加(同+6.4%)。財別に見ると、天然ガス及び製造ガス、通信機等が増加した。

うち、対中貿易収支は+112億円と3カ月ぶりの黒字となった(前年同月差+239億円)。輸出(3,872億円)は4カ月連続の増加(前年同月比+11.2%)。財別に見ると、半導体等電子部品、半導体等製造装置等が増加した。輸入(3,760億円)は3カ月連続の増加(同+4.2%)。財別に見ると、通信機、金属製品等が増加した。

対米貿易収支は+919億円の黒字となり、黒字幅は2カ月連続で拡大した(前年同月比+24.2%)。輸出(1,958億円)は3カ月連続の増加(同+4.0%)。財別に見れば、無機化合物、原動機等が増加した。輸入(1,039億円)は3カ月ぶりの低下(同-9.0%)。財別に見れば、医薬品、原油及び粗油等が減少した。

対EU貿易収支は+55億円と2カ月ぶりに黒字となった(前年同月差+94億円)。輸出(1,607億円)は14カ月連続の増加(同+11.9%)。財別に見れば、原動機、事務用機器等が

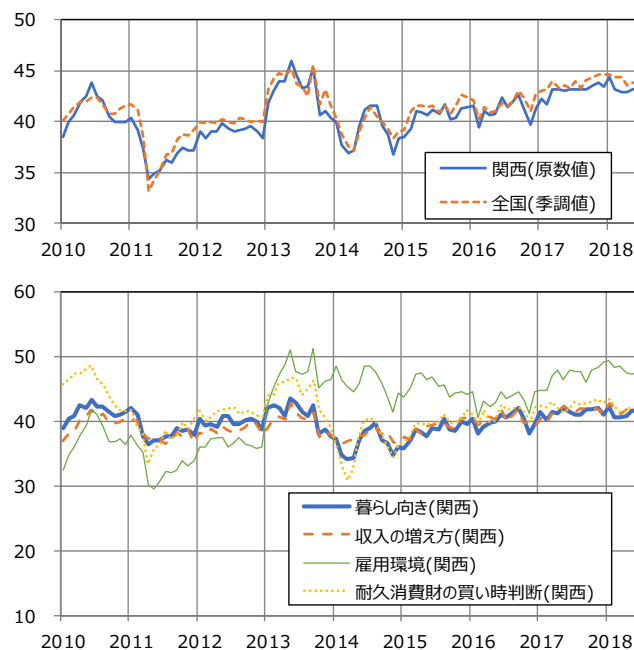
増加した。輸入(1,552億円)は2カ月連続の増加(同+5.2%)。財別に見れば、たばこ、医薬品等が増加した。

【消費者センチメント】

(1) 消費者態度指数の動向

関西6月の消費者態度指数(原数値)は43.3と前月比+0.1ポイント小幅上昇し、2カ月連続の改善。同指数構成項目を見ると、「耐久消費財の買い時判断」(42.4)は同+0.3ポイント上昇し、3カ月連続の改善。「雇用環境」(47.4)は同+0.3ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善であった。一方、「暮らし向き」(41.5)は同横ばい。「収入の増え方」(41.7)は同-0.4ポイントと3カ月ぶりの悪化であった。

消費者態度指数の推移(2010年1月～2018年6月)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

また、全国(季節調整値)は43.7と前月比-0.1ポイント小幅下落し、2カ月ぶりの悪化。同指数構成項目を見ると、4指標のうち、3指標が悪化した。「暮らし向き」(41.9)は同-0.2ポイントと2カ月ぶりの悪化。「収入の増え方」(41.8)は同-0.2ポイントと4カ月連続で悪化。「耐久消費財の買い時判断」(42.9)は同-0.1ポイントで2カ月ぶりの悪化。一方、「雇用環境」(48.3)は同+0.1ポイント小幅上昇し2カ

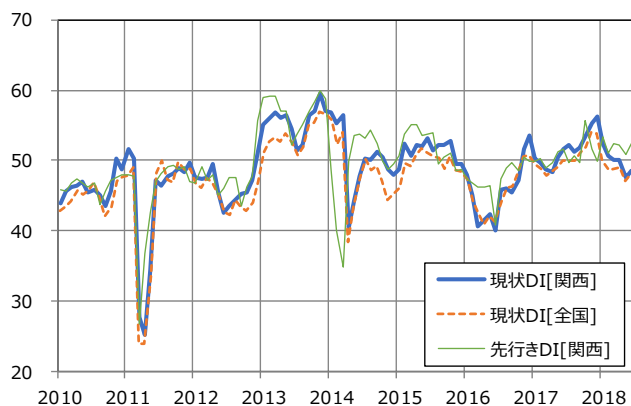
月連続の改善。雇用環境は高水準が続く一方で、日用品などの価格上昇が続いており、消費者心理が小幅悪化した。内閣府は基調判断を「弱含んでいる」と2カ月連続で前月から据え置いた。

(2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西6月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は48.6と前月比+1.1ポイント上昇し、6カ月ぶりの改善。しかし、景況感の良し悪しの分かれ目となる50を2カ月連続で下回っている。大阪北部地震により、百貨店などの大型商業施設での休業や営業時間の短縮、旅館やホテルでの予約キャンセルなどが相次ぎ、消費マインドの悪化につながった。しかし、同時期に行われていたサッカーW杯による家電の販売増や、天候も雨が少なく好天に恵まれたことなどから、総じてみれば現状判断DIは改善した。全国の同指数は48.1と同+1.0ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善となったものの、6カ月連続で50を下回る状態が続いている。

先行き判断DI(季節調整値)は、関西では52.4と前月比+1.6ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。米中間の輸入関税問題などの影響はあるものの、地震からの回復が比較的早期に進むという見込みや、猛暑による夏物商品の販売増加への期待は高い。全国は同+0.8ポイント低下し50.0となり、2カ月ぶりの改善となった。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2018年6月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

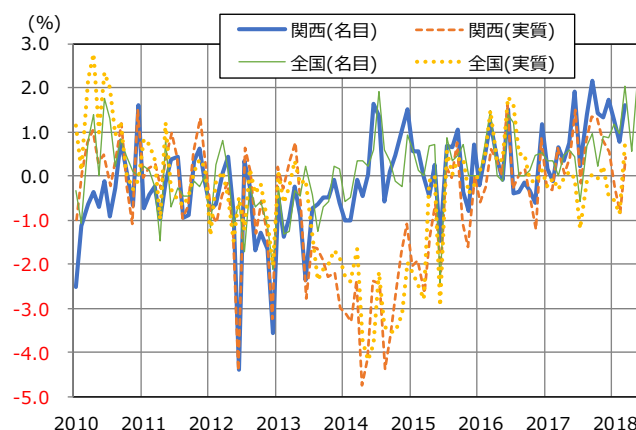
【所得・個人消費】

(1) 現金給与総額

4月の現金給与総額を公表された府県についてみると、大阪府は前年同月比+2.3%(11カ月連続)、兵庫県が同+1.1%(9カ月連続)、京都府が同+1.1%(2カ月連続)と増加した。一方、奈良県は同-0.2%(3カ月ぶり)、和歌山県は同-1.0%(3カ月ぶり)とそれぞれ減少した。

京都・大阪・兵庫の加重平均をとった4月の「関西コア」賃金指数(APIR推計)は前年同月比+1.8%増加し、12カ月連続の改善であった。また、物価上昇分(持家の帰属家賃を除く総合)を除いた4月の実質現金給与総額(実質賃金)は前年同月比+1.2%増加し、2カ月連続の改善であった。所得環境は改善が見られる。

現金給与総額の推移(2010年1月～2018年5月)



(注) 関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

(出所) 厚生労働省「毎月勤労統計調査」、総務省「消費者物価指数」より作成

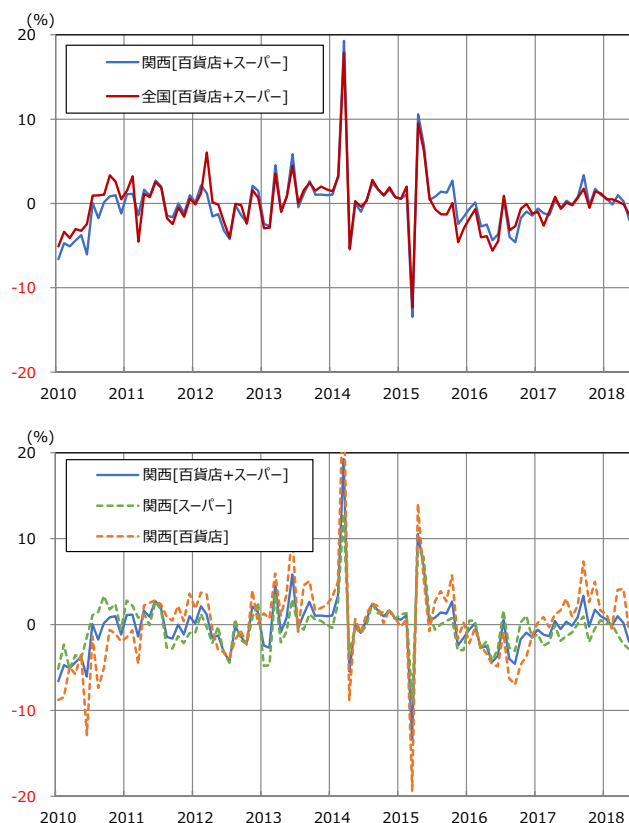
全国5月の現金給与総額(確報値)をみると、前年同月比+2.1%増加し、10カ月連続の改善。内訳をみると、所定内給与は同+1.3%と14カ月連続の増加。所定外給与は同+2.0%と7カ月連続の増加。特別給与は同+18.2%と2カ月ぶりに増加した。実質現金給与総額(実質賃金)は同+1.3%と2カ月ぶりに増加。2016年7月(同+1.8%)以来1年10カ月ぶりの高い伸びであった。ガソリンなどのエネルギー価格の上昇により、消費者物価は同+0.8%上昇したものの、

人手不足などを背景に名目賃金の伸びが上回った。

(2) 大型小売店販売額

関西 5 月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は 3,028 億円となり、前年同月比-2.0%と 3 カ月ぶりのマイナス。うち、百貨店は同-0.7%と、3 カ月ぶりのマイナス。国内外向けの高額品が好調である一方で、気温低下による夏物衣料品の販売が低調となったため。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、5 月は同+61.5%(4 月:同+58.4%)と 19 カ月連続の増加。インバウンドによる売り上げは依然好調である。また、スーパーは同-2.9%と 3 カ月連続のマイナス。主に、農産品価格の低下が影響した。

大型小売店販売額の推移(2010 年 1 月~2018 年 5 月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

全国 5 月の大型小売店販売額(全店ベース)は 1 兆 5,664 億円、前年同月比-1.4%と 2 カ月連続のマイナス。うち、百貨店は同-2.5%と 2 カ月ぶりのマイナス。また、スーパーも同-0.8%と 2 カ月連続のマイナス。なお、小売業販売額(季節調整済指数、後方 3 カ月移動平均)は前月比-0.3%と 2 カ月ぶりに下落した。経済産業省は基調判断を、「横ばい傾向にある」と前月から据え置いた。

【住宅投資】

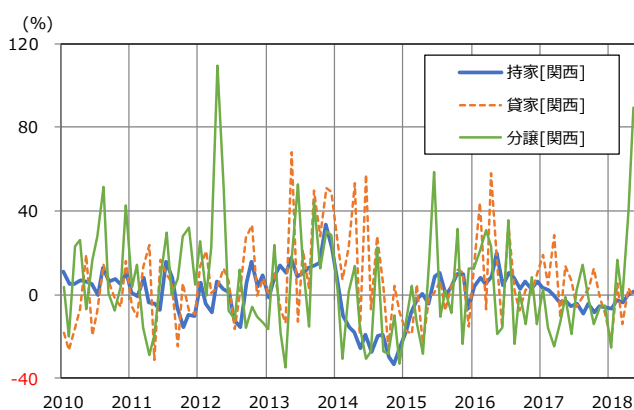
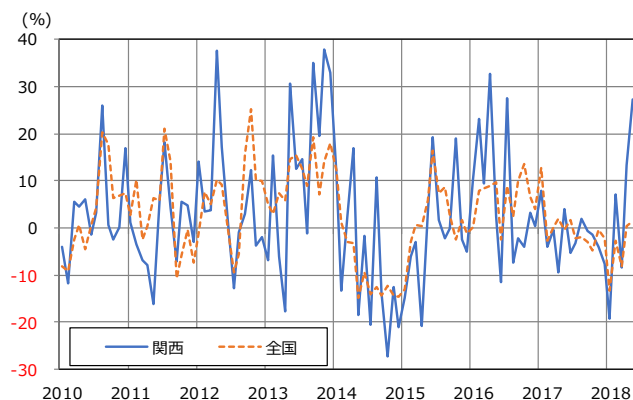
(1) 新設住宅着工の動向

関西 5 月の新設住宅着工戸数は 14,140 戸と前年同月比+27.2%と前月(同+13.4%)に続き、2 桁の大幅増加となった。伸び率は 16 年 7 月(+27.6%)以来の最高値。また、水準は 15 年 6 月(14,330 戸)以来の最高値となった。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、分譲は前年同月比+89.4%と急増し 6,215 戸となり、2 カ月連続のプラス。うち、マンションは大阪府で大規模な着工が集中したため、同+199.9%と記録的に増加した。分譲では消費税増税前の駆け込み需要の影響が見られるようである。引き続き注意が必要である。持家は 2,891 戸で同+1.4%と小幅ながら増加した。15 カ月ぶりのプラス。一方、貸家は 4,905 戸で同-1.4%と 2 カ月ぶりの減少。

全国の同月の新設住宅着工戸数は 79,539 戸となり、前年同月比+1.3%と 2 カ月連続で増加した。利用関係別にみると、分譲は好調を維持したものの、持家、貸家は減少した。分譲は 23,944 戸で同+12.2%と 2 カ月連続で増加した。分譲の伸び率は 2017 年 6 月(+15.5%)以降、最高値となっている。一方、持家は 23,321 戸で同-2.2%と 4 カ月連続の減少。貸家は 31,083 戸で同-5.7%と 12 カ月連続の減少となった。個人向けアパートローンの融資額の減少から、着工は引き続き減少すると見込まれている。今後も増勢が続くかどうか注視する必要がある。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月～2018年5月)



(出所) 国土交通省「建築着工統計」

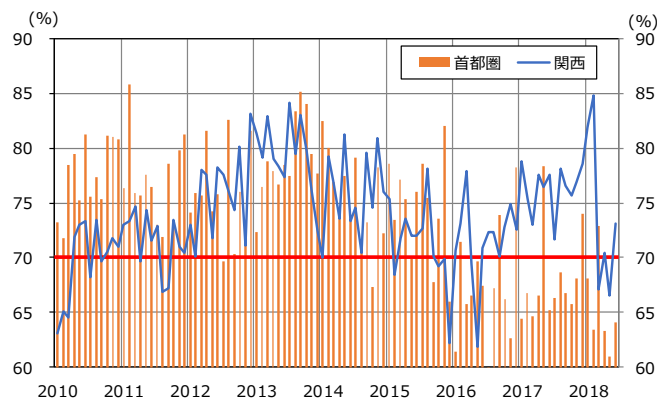
(2) マンション市場動向

関西6月のマンション契約率は73.1%(季節調整値:APIR推計)となり、前月(66.6%)から+6.6ポイント上昇した。2カ月ぶりの増加で、好不調の目安となる70%を再び回復した。大阪市部、大阪府下のファミリー物件の販売が好調で、全体を引き上げた。なお、4-6月期のマンション契約率は70.0%(季節調整値:APIR推計)となり、1-3月期(77.9%)から-7.9ポイント減少し、3期ぶりのマイナスとなった。8四半期連続で70%を上回っているが、2016年7-9月期以来、最小値となった。

一方、同月の首都圏のマンション契約率は64.1%(季節調整値:APIR推計)と前月比+3.1ポイントと3カ月ぶりのプラスだが、3カ月連続で70%を下回った。結果、4-6月期のマンション契約率は62.8%(季節調整値:APIR推計)となり、1-3月期(68.2%)から-5.4ポイント低下した。契約率

は4四半期連続で70%を下回り、2008年4-6月期以来の最小値となった。

関西・首都圏のマンション契約率の推移
(2010年1月～2018年5月・季節調整値)



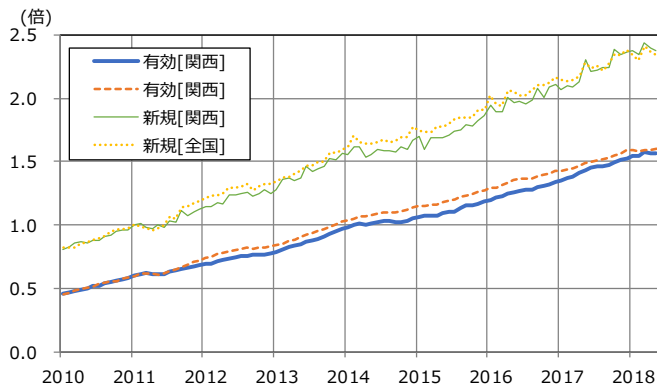
(出所) 株式会社不動産研究所「マンション市場動向」

【雇用動向】

(1) 求人倍率の動向

関西5月の有効求人倍率(季節調整値、受理地別)は、1.56倍で前月比横ばい。内訳をみると、有効求人数が同+0.1%、有効求職者数は同+0.2%といずれも小幅増加。労働需給が引き締まった状態が続いている。府県別では、兵庫県が1.39倍で同+0.01ポイント小幅上昇。一方、大阪府が1.73倍で同横ばい。また、滋賀県が1.36倍、奈良県が1.42倍、和歌山県が1.26倍でいずれも同-0.01ポイント悪化。京都府は1.55倍で同-0.03ポイント悪化した。

求人倍率(受理地別)の推移(2010年1月～2018年5月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(次ページの表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2018年4-5月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
4月	1.59	1.56	1.37	1.58	1.73	1.38	1.43	1.27
5月	1.60	1.56	1.36	1.55	1.73	1.39	1.42	1.26
前月差	0.01	0.00	▲0.01	▲0.03	0.00	0.01	▲0.01	▲0.01

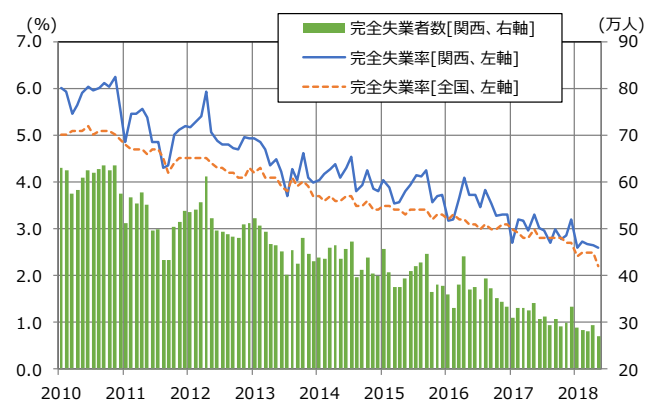
また、関西5月の新規求人倍率は、2.37倍で前月比-0.02ポイント低下し、2カ月連続で悪化した。新規求人数が同-4.6%(4カ月ぶり)、新規求職者数も同-3.6%(2カ月ぶり)に減少したものの、依然として雇用情勢は堅調とみられる。

全国5月の有効求人倍率(季節調整値)は1.60倍と前月比+0.01ポイント小幅上昇し、2カ月ぶりの改善。一方、新規求人倍率は2.34倍で同-0.03ポイント低下し、2カ月連続で悪化した。

(2) 完全失業率の推移

関西5月の完全失業率(季節調整値:APIR推計)は2.6%と前月比-0.1%ポイント小幅低下し、4カ月ぶりの改善。極めて低水準で推移している。完全失業者数(季節調整値:APIR推計)は27.1万人で前月比-2.4万人と2カ月ぶりに減少した。依然として雇用情勢は好調といえよう。

完全失業率の推移(2010年1月~2018年5月)



(出所)総務省「労働力調査」

全国5月の完全失業率(季節調整値)は2.2%と、前月比-0.3%ポイント低下し、4カ月ぶりの改善。1992年10月以来の低水準となった。完全失業者数(季節調整値)は151万人で前月から-21万人減少(2カ月連続の改善)。理由別にみると、「非自発的な離職」は同-5万人減少、「自発的な

離職(自己都合)」が同-11万人減少、「新たに求職」は同-5万人減少した。

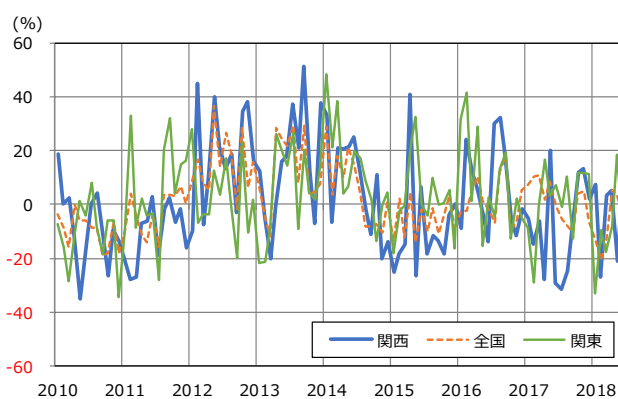
【公共投資・建設工事】

(1) 公共工事請負金額

関西6月の公共工事請負金額は1,345億円で前年同月比+9.9%と前月(同-21.0%)から大幅なプラスに転じた。大阪府北部地震(6月18日)からの回復作業で、今後も増加すると考えられる。一方、関東は3,904億円で同-10.8%と2カ月ぶりの減少。全国は1兆4,339億円で同-5.6%と3カ月ぶりの減少であった。

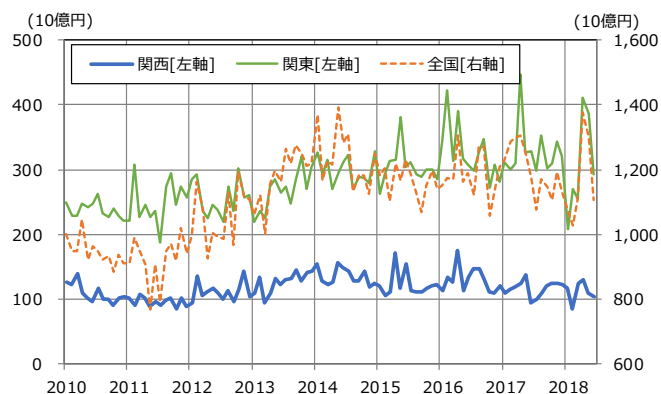
季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は前月比-4.9%と2カ月連続のマイナスだが、前月(同-16.0%)から減少幅が縮小している。全国は同-14.8%(前月:同-5.6%)と2カ月連続の減少であった。同様に、関東も同-24.1%(前月:同-6.1%)と2カ月連続で減速した。結果、4-6月期、関西の公共工事請負金額は前期比+5.6%増加し、2四半期ぶりのプラス(1-3月期:同-12.4%)であった。全国も同+18.0%と大幅増加し、2四半期ぶりのプラス(1-3月期:同-6.5%)。今後は、公共工事請負金額の持ち直しが見られるだろう。

公共工事請負金額(伸び率)の推移(2010年1月~2018年6月)



(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

公共工事請負金額(季調値)の推移(2010年1月～2018年6月)



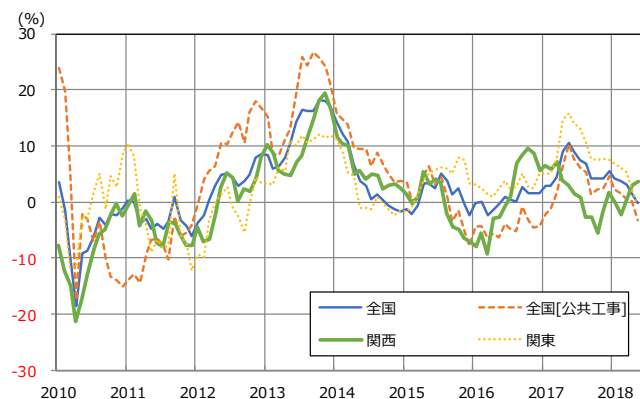
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

(2) 建設工事

関西5月の建設工事出来高は4,823億円となり、前年同月比+3.7%と3カ月連続の増加。関東は1兆4,704億円で同-0.3%と2015年3月以来の38カ月連続の増加からマイナスに転じた。関東の建設工事が五輪に向けた工事により進展しているが、17年11月以降は労働者不足もあり、工事の進捗は減速傾向にある。一方、関西での建設工事は小幅ながらも上昇しつつあり、大阪府北部地震からの復興工事で、今後も増加すると考えられる。

全国5月の建設工事出来高は3兆8,935億円となり、前年同月比-0.2%と、24カ月ぶりに減少した。うち、公共工事は1兆3,809億円で同-3.3%と14カ月連続の増加からマイナスに転じた。

建設工事出来高の推移(2010年1月～2018年5月)



(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。

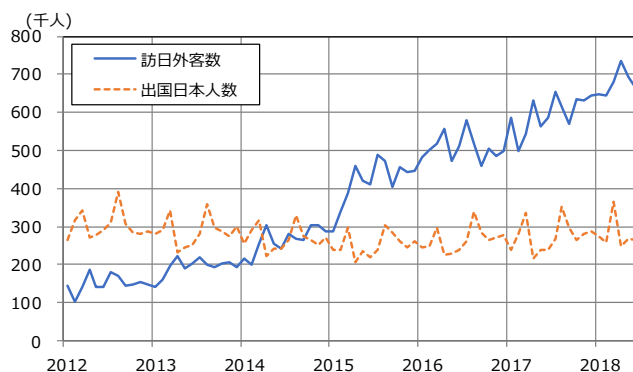
(出所)国土交通省「建設総合統計」

【関空モニター】

(1) 訪日外客数トレンド

6月の関空への訪日外客数は66万2,420人となり、前年同月比+13.3%と16カ月連続で増加した。また、15カ月連続で2桁増が続いている。出外国人数は66万1,780人と同+15.6%増加した。結果、外国人旅客総合数(出入国合計)は132万4,200人と同+14.4%増加した。また、出国日本人数は26万5,050人で、同+11.2%と4カ月連続で増加した。訪日外客数、出国日本人数ともに増加が続いており、好調である。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月～2018年6月)



(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

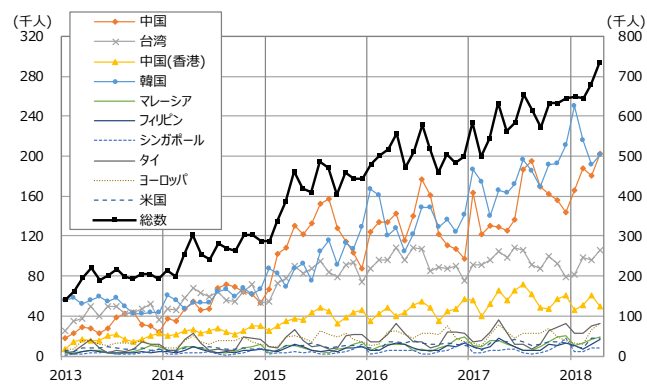
(2) 地域別訪日外客数

関空訪日外客数を国籍別・地域別にみると、4月は中国(香港除く)からの入国者数が20万1,911人(前年同月比+56.2%)と最多となった。次いで、韓国が20万1,035人(同+21.0%)、台湾が10万6,168人(同+1.1%)、香港が5万136人(同-23.2%)であった。花見のシーズンということもあり、中国からの入国者数が韓国を抜き8カ月ぶりに最多となった。

他のアジア各国は、タイが3万2,355人(前年同月比-10.4%)、マレーシアが1万9,132人(同+25.4%)、フィリピンが1万6,237人(同-6.1%)、シンガポールが8,065人(同+37.7%)であった。

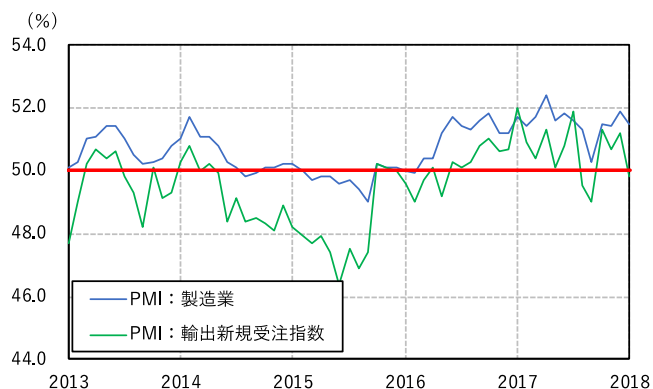
他地域を見ると、欧州全体では3万1,909人(前年同月比+1.0%)、米国が1万7,709人(同+17.1%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2018年4月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

製造業購買担当者景況指数(2013年6月～2018年6月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

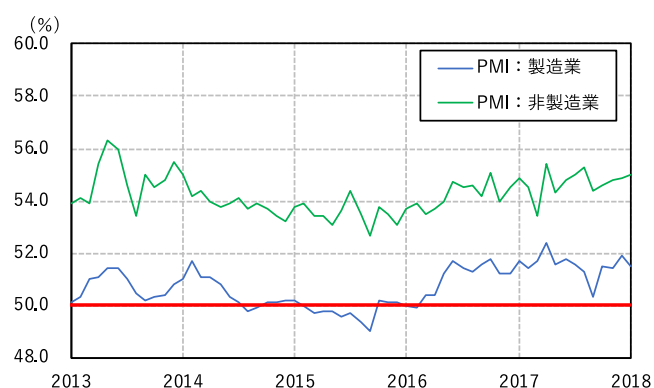
【中国景気モニター】

(1) センチメント

6月の製造業の購買担当者景況指数(PMI)は51.5となり、前月-0.4%ポイント下落した。2カ月ぶりの悪化だが23カ月連続で景気分岐点の50を上回った。非製造業PMIは55.0となり、前月比+0.1%ポイントと4カ月連続で上昇した。

製造業 PMI のうち、生産指数は 53.6 となり、前月より -0.5%ポイント(4 カ月ぶりの悪化)下落した。輸出新規受注指数は 49.8 となり、同-1.4%ポイント(2 カ月ぶりの悪化)下落した。雇用指数は同-0.1%ポイント(2 カ月ぶりの悪化)の 49.0 となり、15 カ月連続で 50 を下回った。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2013年6月～2018年6月)



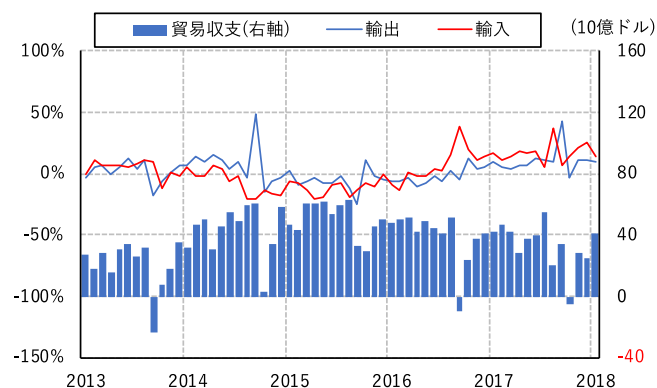
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(2) 貿易動向

6月の貿易収支は416.1億ドルの黒字となった。輸出額(速報値, ドル・ベース)は2,167.4億ドルとなり、前年同月比+10.2%と3カ月連続の増加。輸入額は1,751.3億ドルとなり、同+13.8%と20カ月連続で増加した。

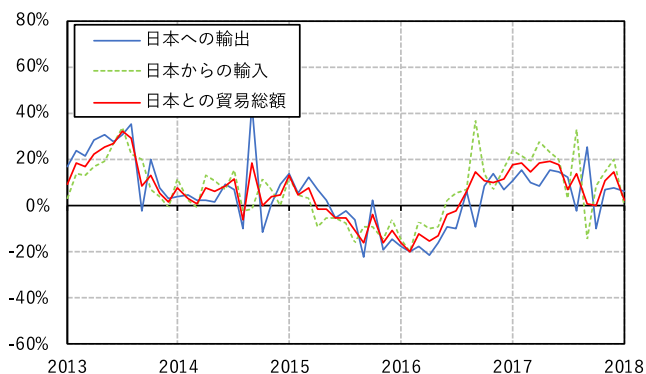
また、対日貿易収支は-28.9億ドルとなり、17カ月連続の赤字となった。対日輸出額は118.5億ドルとなり、前年同月比+6.9%と3カ月連続の増加。対日輸入額は147.4億ドルとなり、同+0.6%で4カ月連続の増加。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+6.0%と3カ月連続の増加。また、対日輸入額は同-0.2%減少し、4カ月ぶりのマイナス。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2013年6月～2018年6月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 2013年6月~2018年6月)



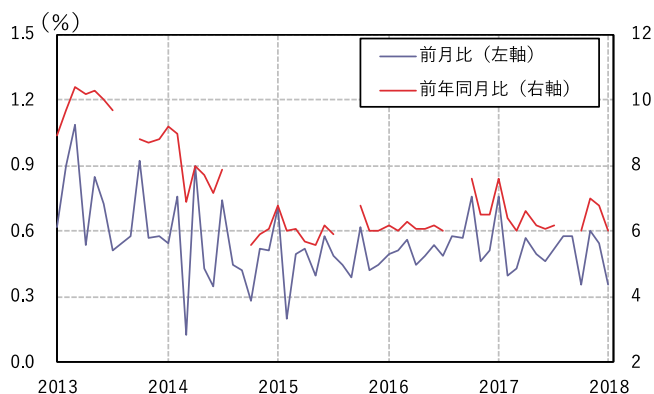
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

(3) 工業生産

6月の工業生産は前月比+0.36%となり、伸びは前月から-0.19%ポイント低下した。また、前年同月比+6.0%と伸びは前月から-0.8%ポイント低下し、2カ月連続で減速した。

産業別に見ると、自動車製造業(前年同月比+14.0%)、専用設備製造業(同+11.5%)、パソコン・通信設備製造業(前年同月比+10.9%)などが高い伸びを示す一方で、化学原料・食品製造業(同+2.9%)、金属製品製造業(同+1.4%)、鉄道・輸送機器製造業(同+0.7%)などは、比較的低調な伸びにとどまった。また、繊維工業(同-0.1%)が2カ月連続で減産している。

工業生産指数(2013年6月~2018年6月)



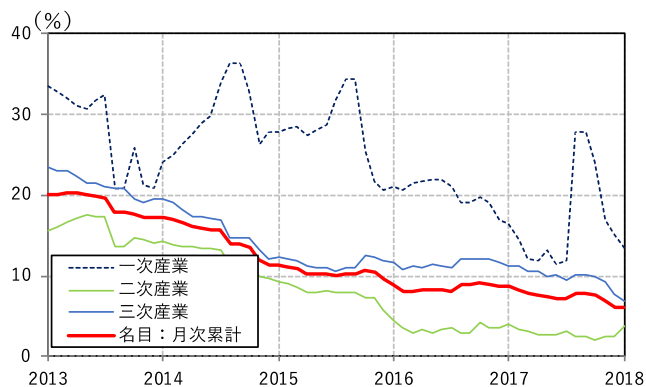
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(4) 固定資産投資

1-6月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+6.0%となり、1-5月期(同+6.1%)より-0.1%ポイント低下し、4カ月連続で減速した。

また、産業別に見ると、第1次産業は前年同期比+13.5%増加したが、伸びは前月から-1.7%ポイントと4カ月連続の減速。第2次産業は同+3.8%と前月から+1.3%ポイント増加した。第3次産業は同+6.8%と4カ月連続で減速した(前月差-0.9%ポイント)。

固定資産投資(産業別)累積伸び率(2013年6月~2018年6月)

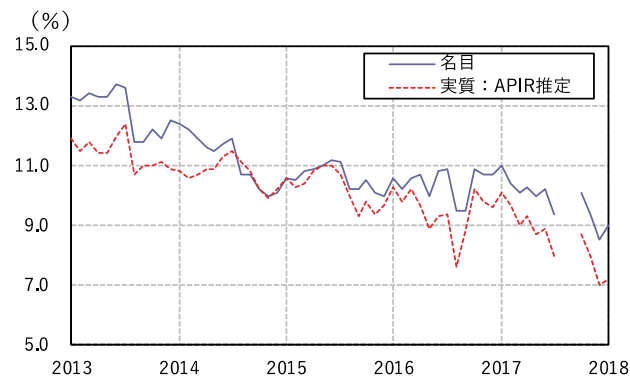


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(5) 消費

6月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+9.0%となり、伸びは前月から+0.5%ポイント上昇した。また、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+7.2%と前月から+0.2%ポイント上昇した。

社会消費品小売総額(2013年6月~2018年6月)



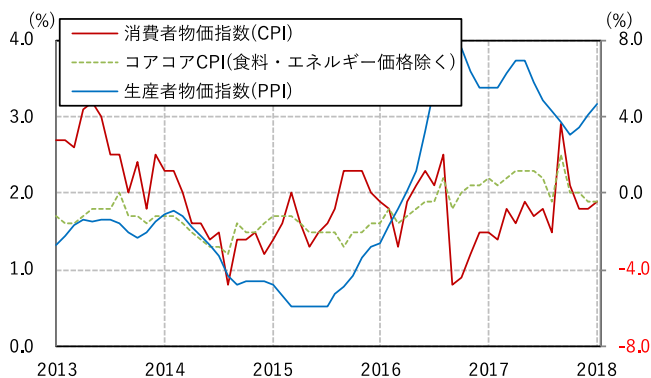
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(6) 物価水準

6月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.9%で、伸びは前月から+0.1%ポイント上昇した。食品価格は同+0.3%上昇し、CPIへの寄与度は0.05%であった。また、非食品価格は同+2.2%上昇しており、CPIへの寄与度は1.8%であった。

また、生産者物価指数(PPI)は前年同月比+4.7%となり、前月から+0.6%ポイント上昇し、3カ月連続で伸びが加速した。生産財価格は同+6.1%上昇し、前月から+0.7%ポイント加速した。消費財価格は同+0.4%上昇し、前月より+0.1%ポイント加速した。

消費者物価指数・生産者物価指数(2013年6月～2018年6月)

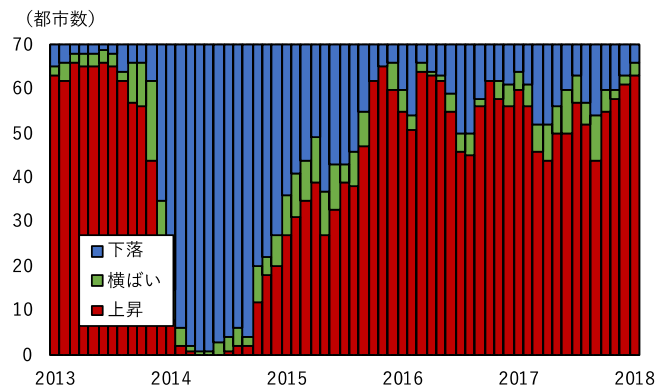


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(7) 不動産市場

6月の不動産市場は前月に続き、回復傾向を示している。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要 70 都市のうち、住宅価格が上昇した都市数は 63 で前月から 2 都市増加した。4 カ月連続のプラス。一方、下落した都市数は 4 で前月から 3 都市減少した。2 カ月連続のマイナス。また、横ばいの都市数は 3 で前月から 1 都市増加した。4 カ月ぶりのプラスであった。

新築住宅価格の主要都市集計(2013年6月～2018年6月)



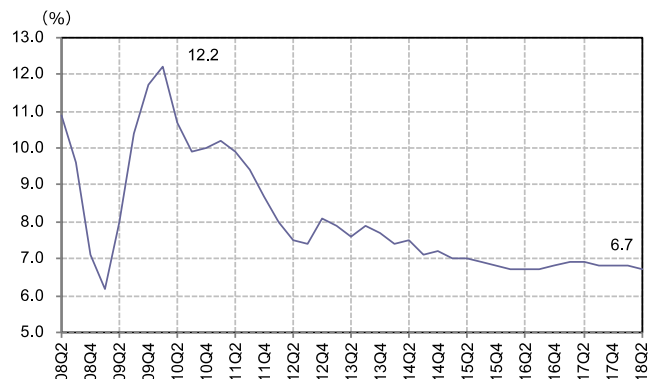
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(8) GDP

4-6月期の実質GDP成長率は、前年同期比+6.7%となり、3 四半期ぶりの減速となったが、2018 年の政府目標(+6.5%)を上回っている。なお、1-6 月期は前年同期比+6.8%となった。

産業別に見ると、第1次産業の成長率は前年同期比+3.2%と伸びは前期から横ばい。第2次産業は同+6.0%で前期から-0.3%ポイント下落した。第3次産業は同+7.8%となり、前期から+0.3%ポイント上昇した。

実質GDP成長率の推移(2008年Q2～2018年Q2)



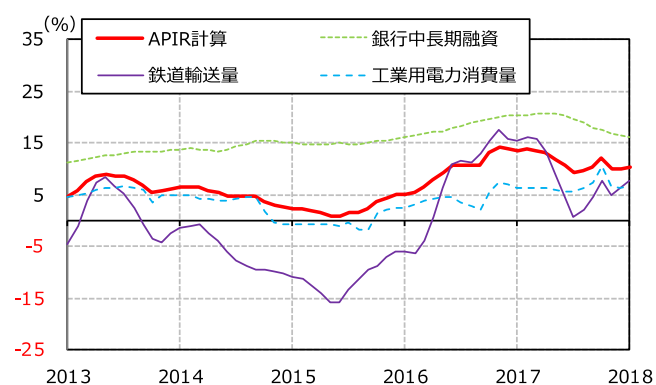
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

(9) リコノミクス指数

6月のリコノミクス指数(APIR 試算)は前年同月比+10.2%と前月から+0.4%ポイント上昇した。内訳をみると、銀行中長期融資は同+16.1%となり、伸びは前月から

-0.4%ポイント低下し、9 カ月連続の減速。鉄道輸送量は同
+7.8%となり、伸びは前月から+1.5%ポイント上昇し、2
カ月連続の加速。工業用電力消費量は同+6.6%となり、伸
びは前月から+0.3%ポイント上昇した。3 カ月ぶりの加速。
結果、4-6 月期のリコノミクス指数は前年同期比 10.0%と
なり、1-3 月期より 0.1%ポイント低下した。

APIR 試算のリコノミクス指数とその内訳(2018 年 6 月まで)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet・馬騰

Tel. 06-6485-7694

E-mail. contact@apir.or.jp

【主要月次統計】

月次統計	17/6M	17/7M	17/8M	17/9M	17/10M	17/11M	17/12M	18/1M	18/2M	18/3M	18/4M	18/5M	18/6M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	51.7	52.2	51.2	51.8	53.3	55.2	56.2	52.4	50.7	50.1	50.1	47.5	48.6
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	51.6	49.7	50.6	49.6	55.6	51.7	49.9	53.4	51.0	52.3	52.1	50.8	52.4
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	50.0	49.9	50.0	51.1	52.0	54.1	53.9	49.9	48.6	48.9	49.0	47.1	48.1
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	50.5	50.5	51.2	51.1	54.5	53.4	52.7	52.4	51.4	49.6	50.1	49.2	50.0
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	43.2	43.2	43.2	43.1	43.6	43.8	43.4	44.4	43.2	42.9	42.9	43.2	43.3
[関西]「暮らし向き(原数値)	41.3	41.0	41.0	41.7	41.7	41.9	40.9	42.2	40.6	40.6	40.7	41.5	41.5
[関西]「収入の増え方(原数値)	41.6	41.2	41.8	41.8	41.8	41.9	41.0	42.7	41.8	41.1	41.6	42.1	41.7
[関西]「雇用環境(原数値)	47.9	47.6	47.6	45.9	47.9	48.2	49.1	49.3	48.2	48.5	47.4	47.1	47.4
[関西]「耐久消費財の買い時判断(原数値)	41.8	42.9	42.5	42.8	43.0	43.3	42.7	43.4	42.2	41.3	41.7	42.1	42.4
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	43.3	43.9	43.3	44.1	44.4	44.6	44.6	44.6	44.3	44.3	43.6	43.8	44.1
[関西]大型小売店販売額(10億円)	304.9	339.1	305.4	293.8	310.3	329.4	410.6	332.9	286.3	316.9	305.1	302.8	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	0.3	-0.1	0.8	3.4	-0.2	1.7	1.0	0.6	-0.1	1.0	0.2	-2.0	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,569.4	1,717.9	1,565.5	1,496.8	1,588.8	1,671.3	2,092.1	1,682.6	1,456.5	1,635.1	1,556.2	1,566.4	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比、全店)	0.1	-0.2	0.7	1.8	-0.5	1.4	1.2	0.5	0.5	0.2	-0.1	-1.4	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	12,002	12,601	11,790	11,354	12,164	11,764	10,224	9,196	11,387	10,788	13,392	14,140	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比)	-5.4	-3.3	1.8	-0.7	-1.5	-4.0	-7.7	-19.4	7.0	-8.5	13.4	27.2	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	87,456	83,234	80,562	83,128	83,057	84,703	76,751	66,358	69,071	69,616	84,226	79,539	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比)	1.7	-2.3	-2.0	-2.9	-4.8	-0.4	-2.1	-13.2	-2.6	-8.3	0.3	1.3	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	77.6	71.7	78.2	76.6	75.6	76.9	78.6	81.9	84.9	67.1	70.4	66.6	73.1
[関西]マンション契約率(原数値)	80.2	73.6	80.0	74.5	74.2	77.7	74.9	78.1	83.9	67.3	71.0	69.5	75.6
[首都圏]マンション契約率(季節調整値)	65.2	66.4	68.6	66.8	65.7	68.1	74.0	68.1	63.5	73.0	63.3	61.0	64.1
[首都圏]マンション契約率(原数値)	67.2	71.9	68.2	64.9	60.7	67.9	72.5	65.2	65.0	74.7	63.0	62.2	66.0
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	122.4	120.3	102.7	139.4	129.9	85.4	97.5	65.4	49.8	122.2	211.7	116.4	134.5
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比)	-29.2	-31.3	-24.7	-8.1	11.7	13.2	1.8	7.5	-26.9	3.4	4.9	-21.0	9.9
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,518.5	1,288.8	1,149.4	1,319.1	1,171.2	863.3	797.3	610.1	613.9	1,269.7	2,177.7	1,285.7	1,433.9
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比)	-0.6	-5.4	-7.9	-10.4	3.9	5.0	-6.4	-12.8	-20.2	-14.5	5.5	3.5	-5.6
[関西]建設工事(総合、10億円)	483.7	500.3	516.6	536.8	547.9	586.5	608.9	589.9	570.2	558.6	484.7	482.3	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比)	1.5	0.8	-2.6	-2.7	-5.6	-1.8	1.6	0.0	-2.2	0.2	2.9	3.7	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,095.9	4,241.2	4,471.7	4,689.1	4,902.6	4,970.9	5,054.8	4,929.2	4,808.8	4,751.6	3,960.9	3,893.5	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比)	9.0	7.5	6.8	4.1	4.2	4.3	5.4	4.3	3.7	3.1	1.5	-0.2	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,505.1	1,568.4	1,711.7	1,876.0	2,043.9	2,085.1	2,164.5	2,094.8	2,041.1	2,047.6	1,455.3	1,380.9	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比)	7.7	6.1	5.3	1.4	2.2	2.5	4.6	2.2	1.6	0.5	0.3	-3.3	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	108.1	106.7	110.9	103.4	105.7	108.9	110.7	103.1	105.9	108.3	114.3	107.1	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	2.3	-1.3	3.9	-6.8	2.2	3.0	1.7	-6.9	2.7	2.3	5.5	-6.0	UN
[関西]「出荷指数(原数値、前年同月比)	5.4	2.3	6.2	-3.6	0.1	1.6	1.3	1.6	-0.8	1.2	5.3	3.8	UN
[関西]「在庫指数(原数値、前年同月比)	1.4	3.7	3.6	2.9	7.8	10.2	9.7	6.8	5.6	8.2	3.4	1.0	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	106.0	103.7	107.9	100.5	102.2	107.8	108.3	101.1	104.1	104.7	111.4	105.9	UN
[関西]「出荷指数(季節調整値、前月比)	2.6	-2.2	4.1	-6.9	1.7	5.5	0.5	-6.6	3.0	0.6	6.4	-4.7	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	122.0	122.9	124.0	124.3	124.9	121.2	122.9	122.9	121.9	127.0	127.1	125.6	UN
[関西]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.9	0.7	0.9	0.2	0.5	-3.0	1.4	0.0	-0.8	4.2	0.1	-1.3	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	101.9	101.6	102.9	102.3	102.8	103.5	105.4	100.7	102.7	104.1	104.6	104.4	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.2	-0.3	1.3	-0.6	0.5	0.7	1.8	-4.5	2.0	1.4	0.5	-0.2	UN
[全国]「出荷指数(原数値、前年同月比)	5.3	4.1	5.8	1.6	2.8	2.4	4.3	2.2	0.7	1.4	3.6	3.3	UN
[全国]「在庫指数(原数値、前年同月比)	-2.8	-2.3	-2.9	-2.5	1.9	2.8	1.9	1.5	1.6	3.9	1.7	2.5	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、10年=100)	100.5	100.1	101.6	99.8	99.4	101.3	103.3	98.7	100.3	101.5	103.1	101.5	UN
[全国]「出荷指数(季節調整値、前月比)	1.6	-0.4	1.5	-1.8	-0.4	1.9	2.0	-4.5	1.6	1.2	1.6	-1.6	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、10年=100)	108.9	108.2	107.6	107.4	110.5	109.8	109.8	109.3	109.9	113.5	112.8	113.5	UN
[全国]「在庫指数(季節調整値、前月比)	-1.6	-0.6	-0.6	-0.2	2.9	-0.6	0.0	-0.5	0.5	3.3	-0.6	0.6	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比)	1.9	0.2	1.4	2.1	1.4	1.3	1.7	1.3	0.8	1.6	UN	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比)	1.6	0.3	1.6	2.2	1.6	1.4	1.9	1.9	1.0	1.8	1.8	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比)	0.4	-0.6	0.7	0.9	0.2	0.9	0.9	1.2	1.0	2.0	0.6	2.1	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.0	3.0	2.7	3.0	2.8	2.9	3.2	2.6	2.7	2.7	2.7	2.6	UN
[関西]完全失業率(原数値)	3.0	3.1	2.9	3.2	2.8	2.6	2.8	2.7	2.8	2.7	2.6	2.5	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.4	2.5	2.5	2.5	2.2	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.21	2.22	2.24	2.24	2.38	2.34	2.36	2.37	2.34	2.44	2.39	2.4	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.24	2.26	2.22	2.27	2.35	2.34	2.38	2.34	2.30	2.41	2.37	2.3	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.45	1.46	1.46	1.47	1.49	1.51	1.52	1.54	1.54	1.57	1.56	1.6	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.50	1.51	1.52	1.53	1.55	1.56	1.59	1.59	1.58	1.59	1.59	1.6	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	172.4	135.1	161.9	249.8	160.1	162.8	256.1	-54.7	133.6	368.4	236.3	82.6	268.1
[関西]輸出(10億円)	1,383.9	1,329.4	1,382.4	1,482.4	1,425.3	1,520.4	1,589.4	1,303.4	1,353.5	1,607.2	1,443.2	1,402.7	1,520.9
[関西]輸出(前年同月比)	8.0	10.8	17.4	17.3	14.4	21.5	12.0	19.5	0.0	8.9	8.1	13.2	9.9
[関西]輸入(10億円)	1,211.5	1,194.3	1,220.5	1,232.6	1,265.2	1,357.6	1,333.4	1,358.1	1,220.0	1,238.8	1,207.0	1,320.1	1,252.8
[関西]輸入(前年同月比)	14.3	16.9	12.7	11.1	20.8	15.5	18.0	5.5	22.3	-1.2	4.0	15.3	3.4

注：鉱工業生産 輸送機械工業は鋼船・鉄道車両除く。

Release Calendar for June/July

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
25-Jun	26-Jun 出入国管理統計 (4月) 近畿地域鉱工業生産 動向 (4月:確報値)	27-Jun	28-Jun 貿易統計 (5月:確・速) 貿易統計 (4月:確報値) 商業動態統計 (5月:速報値)	29-Jun 消費動向調査 (6月) 鉱工業指数 (5月:速報値) 一般職業紹介状況 (5月) 労働力調査 (5月) 建築着工統計調査 (5月)
2-Jul 中国製造業 PMI (6月)	3-Jul	4-Jul	5-Jul	6-Jul 毎月勤労統計調査 (5月:速報値)
9-Jul 景気ウォッチャー 調査 (6月)	10-Jul 近畿地域鉱工業生産 動向 (5月速報値) 中国 PPI&CPI (6月) 近畿圏貿易概況 (5月確・速) 近畿圏貿易概況 (4月確報値)	11-Jul	12-Jul	13-Jul 鉱工業指数 (5月:確報値) 商業動態調査 (5月:確報値) 公共工事前払金保証 統計(6月) 中国輸出入 (6月:速報値)
16-Jul 中国工業生産(6月) 中国固定資産投資 (6月) 中国消費小売総額 (6月) 中国不動産市場 (6月)	17-Jul 建設総合統計(5月) マンション市場動向 (6月)	18-Jul	19-Jul 貿易統計 (6月:速報値) 近畿圏貿易概況 (6月速報値)	20-Jul 出入国者数(6月)
23-Jul 毎月勤労統計調査 (5月:確報値)	24-Jul	25-Jul 出入国管理統計 (5月)	26-Jul	27-Jul 貿易統計 (6月:確・速) 貿易統計 (5月:確報値)